

令和6年度第1回 京丹後市文化芸術振興審議会（会議録）

1. 開催日時 令和6年5月30日（木）午後2時00分～4時00分
2. 開催場所 京丹後市大宮庁舎 4階 第2・3会議室
3. 出席者氏名
 - (1) 審議会委員
田中会長、松本副会長、上田委員、後藤委員、谷口委員、藤原哲委員、吉岡弘委員、増田委員、安井委員、山内委員、吉岡高委員、山田委員
※ 欠席3名（榎田委員、丸山委員、藤原可委員、）
 - (2) アドバイザー
藤野一夫氏、甲斐少夜子氏
 - (3) 事務局
教育長 松本明彦
教育次長 川村義輝
生涯学習課 課長 松本優、課長補佐 小森教正、主任 寺島千絵、主任 野村拓矢
4. 内容
別紙（会議次第）のとおり
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 傍聴人 1人

会議録

事務局 皆さんこんにちは。定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第1回京丹後市文化芸術振興審議会を開催させていただきます。本日はご多忙の中、本審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。私は教育委員会事務局生涯学習課長の松本と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。それではまず最初に委員の皆様へ委嘱状の交付を行います。委員の皆様は、昨年、令和5年10月12日までとなっております。本来であれば、この任期が満了したタイミングで、新たな委嘱状の交付をさせていただくべきところでしたが、文化芸術のまちづくり推進会議の立ち上げが遅れていたということがございまして、審議会の開催がずれ込み、本日の開催となりました。このタイミングでの交付とさせていただきますことをご了承ください。よろしくお願いいいたします。なお、今回は時間の都合上、委員を継続していただく皆様方におかれましては机上交付とさせていただきます。令和5年10月12日をもって前委員の後藤淳司様が任期満了により退任されましたので、新たに特定非営利活動法人京丹後コミュニティ放送の阿辻凜太郎様に代表して委嘱状を交付させていただきます。阿辻様、よろしくお願いいいたします。

（委嘱状交付）

事務局 それでは、新たな任期で初めての審議会ということでもございますので、委員の皆様方に

それぞれから自己紹介をお願いしたいというふうに住じます。吉岡委員さんから順にお願いできますでしょうか。

(委員、アドバイザー、事務局 自己紹介)

事務局

ありがとうございました。本日はですね、榎田委員と藤原委員、丸山委員よりご欠席のご連絡をいただいております。本日の審議会につきましては、委員 15 名のうち、出席委員 12 名と、過半数の出席をいただいております。本審議会は成立しておりますことをご報告させていただきます。それでは開会にあたりまして、松本教育長よりご挨拶申し上げます。

教育長

では改めまして松本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。今年度最初の、京丹後市文化芸術振興審議会開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。日頃は、皆様、本当に本市の教育行政にひとかたならぬご尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、委員の皆様多くは、この京丹後市文化芸術振興計画の策定の方に大変お世話になりましてありがとうございます。おかげさまをもちまして、一昨年 3 月に、計画策定することができたというところでございます。また、この 6 年の 1 月には、この計画をもとに、芸術文化に係る事業の企画提案や改善策を検討する文化芸術のまちづくり推進会議を発足しまして、稼動開始しております。実施された事業の評価や分析を行うこの本審議会と双方がいよいよ本格的に稼動し始めたところでございます。さてその計画の中にも、一番初めに、この文化に触れていくような機会を創出していこうというようなところが述べられていると思います。私ごとで申し訳ないですが、先日ゴールデンウィークに、京丹後市内のいくつかの友人の方から、ぜひとも、大阪でやってたモネ展がいいので、ぜひ観に行ったらどうだって言われましたので、ゴールデンウィークに、大阪までわざわざ行かしていただいたんです。それでゴールデンウィークなので、入場券も前もって今入手できる時代であるので、入場券を入手して、15 分前ぐらいから、会場中之島美術館中の前に来ましたら、ものすごい列ができていたので、前もって入場券買ってよかったなと思って、入館しようとしたら、その会館をぐるっと 1 周している列は、すでに入場券を持った人の列でして、それでも入るのに、入場券を持ってると 1 時間以上かかって、やっと入館したというような状況でした。本当に、皆さんそういう、いい、本物のモネの作品についてということで、ゴールデンウィークとはいうものの、本当に大勢の方が、家族連れでいらっやっていて、子供たちにそうした文化に、文化芸術に触れる機会をとということで鑑賞されていた姿を見まして、途中で市内の家族、1 家族に出会ったんですけれども、とはいうもののやっぱり心の文化に触れるということでは距離的な範囲というところをすごく感じたなというふうに思っています。また、皆さんもご承知かと思いますが、本年度の 9 月 2 日に、亀岡のサンガスタジアムにおいて、田中彩子さんとアルゼンチンの国立青少年交響楽団のコンサートが実施されることになっておりまして、そのコンサートは、田中さんの意向で、京丹後市の文化国際交流アドバイザーをして頂いているので、その意向もあって京都府の子供たちに、無料で招待して鑑賞して欲しいというようなことで進んでいるわけですが、本部の方からは、会場の亀岡市と出身地の舞鶴市の子供たちを京都府としては招待しようかと考えていたのですが、田中彩子さんの方から、直々

に、京丹後市の子供たちもぜひ招待して欲しいということ言われたそうで、京丹後市の方も、子供たちがこの9月2日のサンガスタジアムでのコンサートに招待いただけることになっております。それで、小中学校の方に希望を聞きましたら、小中学校で6校が手を挙げていて、700人ぐらいです。ですから、全児童生徒の5分の1の子供たちがその機会を得ることになりますが、またこれも、距離の壁がございまして、輸送をどうしていくのというようなところで本当に難しい部分があるというふうなことを感じているところで、この2つの例をとりましたが、なかなか本物の文化に触れていく、市民や子供たちが本物の文化に触れていくというところでは、そうしたことのハンディはありますが、ここに計画を出していただいたように、市内の中でもいろいろな芸術文化に関わる取り組みを多くしていくことによって、市内の中でも子供たち、それから市民の皆さんが芸術文化に触れる機会がより多くなっていくことが、この計画策定の意味ではないかなというふうに思っておりますので、本日の会議の中で、皆さん、様々な面でご活躍されている皆様ですので、多様な、そして活発な意見をいただいて、今後の、そうした芸術文化が、市民や子供たちに浸透しますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

事務局 はいそれでは次に、今回の任期におけます、正副会長の選出に移りたいと思います。審議会の条例の規定では、会長・副会長は委員の互選で決めると規定されております。どなたか立候補される方はおられますでしょうか。はい。無いようですので、事務局の方から提案させていただきます。

事務局 はい。それでは、会長に一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興公社京丹後地域本部長の田中様。副会長に京丹後市文化協会会長の松本様にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(拍手)

事務局 ありがとうございます。田中会長様、松本副会長様、会長席、副会長席にご移動お願いできますでしょうか。

(会長・副会長席移動)

事務局 ありがとうございます。早速ではありますが、田中会長からごあいさつをいただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

田中会長 皆さま改めまして、よろしくお願い致します。私のような浅学非才なものが、皆様それぞれに、ジャンルジャンルで、ご活躍しておられる方を、と思っておりますけれども昨年に引き続きということで、阿辻さんは初めてなんですけれども、藤野先生はじめ、アドバイザーの甲斐さん、それから教育長、引き続きお役目をいただくということで、行政の方も今がらりと変わられて、生涯学習課はすごく、大変なボリュームの中で、去年の策定に関わっていただいて、そして皆さんご多用の中、こうして審議会にお集まりいただきまして、どうか今教育長のお言葉にありましたように、この中で和気あいあいと中身のあることが話し合っていけたらなと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。はい。失礼いたします。簡単ではございますが、失礼いたします。

事務局 はい。田中会長ありがとうございます。この会議は公開で開催しております。本日の傍

聴者は1名になっておりますのでご報告させていただきます。また、この会議は会議録を作成するため録音させていただいております。会議中ご発言の際は、マイクをご使用いただき、ご発言いただきますようお願いいたします。後日、会議録を確認いただき、ご署名をいただく委員さんとしまして、吉岡委員にお世話になりたいと思います。よろしくお願いいたします

(資料の確認)

この後、議事に入りたいと思います。ここからは田中会長に進行をお願いいたします。

田中会長 はい。それでは議事に入らせていただきます。文化芸術振興審議会について、事務局の方よりお願いいたします。

事務局 (事務局より説明)

田中会長 ありがとうございます。資料ナンバー1、事務局からの説明についてご質問はございますでしょうか。よろしいですか。ないようでしたら、令和5年度の文化芸術関係事業について、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局 (事務局より説明)

田中会長 ただいまの事務局からの説明についてご質問のある方はおられませんでしょうか。よろしいですか。お願いいたします。

委員 すいません。ちょっと私も全然わからないので教えていただきたいんですが、京丹後文化のまちづくり実行委員会、これは市の主催ではなく、実行委員なんですかね。ちょっとそこを教えて。

田中会長 事務局お願いします。

事務局 はい。事務局の方は、生涯学習課の中に置かせてもらっていますけども、団体としましては、市の団体ではなく、別団体というような、形になっております。

委員 市の主催ではない。

事務局 そうですね、はい。

委員 はい。わかりました。

田中会長 よろしいでしょうか。あの、図を頂いているんですけど。そこにはめて、自分の頭の中です、整理をしながら見せていただいておりますが、その他にご質問がないようでしたら、ご質問、お願いいたします。

委員 すいません。まちかどピアノ貸出事業、こちら前年度の計画にあり実現しなかったということなんですけれども、このまちかどピアノ貸出事業は、実際、広報であったり、その貸し出しの窓口だったりっていうのは市民に伝わってたんでしょうか。

田中会長 事務局お願いできますか。

事務局 はい。まちかどピアノの広報につきましては、市全体に対しまして、広報の方、若干、弱かったのかなという部分もございましたので、次年度については少し改善をしていく必要があるかなというふうに感じております。

委員 ありがとうございます。

田中会長 その他、はい、お願いいたします。

委員 質問ではないんですけれども、ちょっと今後考えたらいいなと思うことがありまして。小

牧源太郎展の展示なんですけれど、展示会場に誘導するご案内が不足したんじゃないかと思っていました。私はこの計画がある頃から見してもらおうと、何回も見てるんですけど神戸でね。でも30点もあるなら、見ようと思って見てないのもあるかなあと思っておりまして、連れ立って、友達に行ったんですけど。本当にあるのって友達が言うくらい、道すがらに、ご案内が少ないんですね。会場のところの玄関の所に何枚かポスター貼ってありました。A4のポスターね。ですけれども、もっと市民が、あるよ行こうって思われるようなお誘いがもう少し要ったんじゃないかと思います。せっかくの展示ですし、今後気をつけたらいいなと思います。

田中会長 よろしいでしょうか、事務局。

事務局 はい。貴重なご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

田中会長 その他にございませんでしょうか。なかなか前回、本当に委員の方。お久しぶりで、間の会議が抜けてたのと、教育委員会さんすごいお忙しいだろうなと思いながら、私も2月25日のシンポジウムも、直前に知るとか行けなかったとかいうこともあったんで、なかなかもう計画策定っていうのもこれを進めるのに、大変だったなというのは予測できるんですが。小牧源太郎展でいうと、すいません、議長でありながらですけど、私も行かせていただいて、あそこで本を購入しようと思うと、購入できなくて、教育委員会に行ってくださいっていうような、ことがありまして。その辺のところ、他のミュージアムでもそういうことがあるんですけど、何かこう、もったいないなという感じが、そこかしこにあったように思います。では、他にご質問ございませんでしょうか。推進会議の方もできて、その会議と一緒にってる方もちらっとおられるんですけども、この計画を作成していただくのは本当に大変な時間を、ここまで来ているんですけども、ご質問やご意見でもいいです。よろしいですか。そうしましたら、先に、お願いします。

事務局 はい。そうしましたら、続きまして、令和6年度の文化芸術関係事業についてご説明させていただきます。

(事務局より説明)

田中会長 はい。ありがとうございます。活字を、皆さん、目で追っていただいてご覧いただくということになるんですけども、今の事務局からの説明の中で、ご質問、ご意見がございましたら、お願いできますでしょうか。

事務局 すいません。事務局から追加で説明よろしいでしょうか。

田中会長 お願いします。

事務局 はい。資料ナンバーの1ページ目では、基本方針1、活動機会を充実させます。の基本施策1のところですけども、令和6年度取組としまして、5番、市制20周年記念文化公演ということで、主催は京丹後市市制20周年記念文化公演実行委員会になるんですけども、こちらの方も現在企画を進めております。あと、その下の6番のところですけども、冒頭、教育長からの挨拶の中にもあったんですけども、ソプラノ歌手の、田中彩子さんの主催コンサートに、市内の小中学校が無料招待を受けているということもありまして、市の取り組みとは言えないかもしれないんですけど、トピックとしてここに記載させてもらっ

ております。以上です。

田中会長 はい。ありがとうございます。令和6年度の関係事業について、皆さんちょっと、活字を追っていただくようなことになりますけど、主なところは今ご説明頂きました。皆さん質問はございませんでしょうか。では副会長。

松本副会長 せっかくの機会なのですみません。情報の発信の関係である1個、提言も含めて。資料のナンバー5の4ページの一番下、さらに5ページの一番上、先ほどもアートフェスティバルの関係の広報 SNS を活用をして、事務局の方から、やっていきましたという報告がありましたけれども、なかなか発信の成果といいますか、伝わり方にはちょっと課題があったんじゃないかという見解でございましたので、では6年度、具体的にどういう形で広げていかれるのかとか、私も文化協会の会長を、預かっている立場で、広報には大変苦慮しております、紙ベースで広報しようと思いますと、近年の印刷代の高騰で、もう予算がとてとて振り分けられない。広報の数を減らさざるをえないという中で、どうして広報を強化するといいいんだろうという、大変深い悩みに陥っております。広報がないと足を運んでくださる方の数も、やっぱり少し影響があるんじゃないかということから、どうしてもwebですとか、既存の市の広報紙だとか、そんなところで連携した形でお金を使わずにどうしたら広報ができるかなというふうに、大変頭を悩ませてるんですけども。なかなか行政の締切の時期だとか、いろいろ難しい関係がございまして。なかなか具体的に、打開策、できていないというような、文化協会としての今までなんですけども。他の団体でもおそらく似たようなところがあるんだと思いますが。この広報や情報発信が大事だというのはこの計画を作る段階からずっと言われてきておまして、5年度の SNS やったけれどもという振り返りもあったので、6年度、こういうふうにもう少し力入れてやるよとか、こういう団体のネットの中にも、入っていくとか。これは少し具体的な何かアイデアがもしあるようでしたら、お聞かせ願いたいんですが、いかがでしょうか。

田中会長 お願いいたします。

事務局 はい。ありがとうございます。そうですね。情報発信につきましてはこちらも近々な課題だなというふうにはちょっと感じております。昨年度から立ち上げましたまちづくり推進会議の方は、会議の何に取り組むのかというところで少し資料3の、1ページ目の方で、2つのものなんですけれども、推進会議につきましては3つのテーマについて、具体的にみんなで話し合っって提案をしていくというような会議体になっております。1つ目が市民参加の公演鑑賞体験の創出。それから2つ目が文化資源のデータベース化情報発信、3つ目が文化芸術の環境整備、これらについて具体的な事業の企画立案及び行動計画案を提案するという会議体になっております。昨年度2回につきましては新しい会議体で、初めて顔を合わせる方々も多かったので、具体的なこの3つに触れてというよりはまずはそれぞれの委員の人たちが自分たちが何をしてきたのかとか、どういうことをできるのかということと、また、コミュニケーションを深めるということで、この2回はグループワークという形で、それぞれの活動を振り返ったりというような時間を入れております。今年度はすでに1回目の会議が行われているんですけども、今年度は、来年度の事業提案に向けて、何を自分たちで提案していくかというところで、この3つのテーマの中から「情報発

信」について、企画提案というか事業改善案を提案するというので、取り組みを始めております。今年度、別の組織になるんですけれども、公立文化施設協会というところで、支援員制度というのがございまして、実際に専門の方に支援の派遣をしていただいて、その専門家の特化した内容、その専門家の方に来ていただいて、まずこちらの悩みについてのアドバイスであったり、勉強会であったり、をしていただけるような制度があるんです。それを今年度応募させていただいて、先日採択がございまして、来月、愛知県芸術劇場の広報の専門の担当の方にお越しいただいて、このまちづくり推進会議の方向けに、広報の勉強会というのを開催する予定でおります。広報の専門の方は愛知県ですけども独自の本当に京丹後市に特化した内容の支援内容というか勉強会を開いていただいて、実際に自分たちの今持っている悩みを解決に導けるような支援をいただく予定でおります。それをもとに推進会議が、この京丹後市の現状ってどういった情報発信についてどういうことをしていくのかっていうような具体的な提案を、行っていく予定でおります。なので、ちょっと市の中でも、その推進会議と並行しながら、どういったことを、まずは発信事業としてやっていくべきなのかっていうところを、今、ちょうど取組始めているところではあります。

田中会長
教育次長

はい。

事務局の立場から少しお話させていただきたいと思います。広報につきましては、この文化芸術に限らず、市役所の中で、様々な部署がございまして、議会からも時折ご指摘をいただく中で、しっかり広報ができていないんじゃないか、弱いんじゃないかということ、聞かされてございまして、大変重要な課題だというふうに思っております。先ほどありましたこういった市役所が、教育委員会があまり作らない、こういったものがそれぞれの部署で、そのイベントごとに、目を引くようなものができればいいのですが、じっくり考えたりアイデアを出して、対応するというのもなかなか難しい中で、できることとしては、やはり様々なメディアがありますので、従来からの紙媒体、そしてホームページ、市でしたら、LINEですとか、Facebookで情報発信しておりますので、それと防災無線、すべてのメディアを使って、必ずやるんだということを徹底していきたいというふうに思っております。職員も、日頃、企画立案をして、事業を進めているわけですけども、広報の意識が少し薄い。広報をすべて、記者発表して広報するところまでが1つの仕事だという意識が少し薄い面もありますので、その辺は内部でしっかりと徹底していきたいというふうに考えております。またこの辺につきましては、それぞれの立場の委員の皆さんやアドバイザーの先生方にも、ご指導いただけたらありがたいというふうに思っております。

田中会長
委員
田中会長
委員

ご説明ありがとうございました。その他に、ございませんでしょうか。

はい。

お願いいたします。

ちょっとすぐく初心に戻った意見で申しわけございませんけど、この審議会の方で、本来そのやるべき会議の内容とかがあっていうのは、ちょっと私も結構頭の中整ってない状態です。といいますのは、この令和5年とか令和6年の方でこんなことありました、こんなこ

とやりますよっていう形に対して、私たちが例えば評価の分析をするっていうイメージなのか。ではなくて事業に対しての改善とか企画を提案する側なのか。そうであれば、この6年の事業等もありますが、それ以外の事業の方とかというのも、こっちで検討ができるものなのか、なんか。ごめんなさい。意見は多分いっぱい、いろいろ意見を出せると思うんですよ。で、何かどうですかね。どの答えを探していいのか、市役所、市の方に対してのイベントに対して、答えを出していくのか。もしくはその市全体でこのまちづくりという形で、音楽系とかいろんな文化系の方の、提案とかをこちらの方がしていくのか、ものすごくちっちゃな、もう今ごろになってこんな意見は申し訳ないんですけども、ちょっとこの辺の確認を再度聞かせていただきと思ひまして。すいませんちょっとわかりにくい質問で申し訳ない。

田中会長 難しいですよ。本当に。その辺が、多分委員の方、皆、そう思いながら、一応計画は立てているんですけども。はい。ご説明いただけますでしょうか。

事務局 はい。すいません。こちらの皆様に文化芸術振興計画の策定をお世話になったということでございますし、この計画に沿った形で、実際の具体的な市の課題でありますとか、事業等、こんなことしたらどうかというようなことについては、推進会議で、検討をしていくことを想定しております。この資料ナンバー1の方にも書いてあるんですけども、この振興計画の課題6つに対しまして、いかに改善していけるかなってというような具体策を、推進会議の方で提案をいただくような形をしております。それを今度また秋に推進会議等でも、令和7年度向けの方で、検討していきたいなと思っておるんですけどもそういった部分をまた、審議会にも、このような計画が今推進会議でありますよということを、ご提示させていただきまして、そこの部分がまたこの振興計画6つに対しましての評価・分析をしていただきまして、そちらに沿った形になっておるかとか。この辺りでは関係ないんじゃないかというようなご意見をいただき、具体的なイベントの内容とか、市の動きとか、その具体策については推進会議の方が検討できればというふうに今考えております。審議会の皆様におかれましてはそういった推進会議等が、考えております内容についてですね、まだここは足りないんじゃないかと。それはご検討いただいたりとかですね、ここは以前に比べて改善したんじゃないかという言葉がいただけたら、どうかというふうに考えております。

田中会長 お分かりになりましたでしょうか。以前の会議のときには実践会議、実践会議というような名前だったのが、推進会議という名前がついて、第1回目が行われているということですね。そうですね。はい。

事務局 そうですね。以前は実践会議を作る、別の組織として立ち上げるというようなことで計画上確か実践会議というような名前があったようですけども、検討する段階で実践会議という名称ではなくて、現状、今立ち上がっております、まちづくり推進会議というものが計画の中でありまして実践会議と同じ内容となっております。

田中会長 前の審議会のメンバー、ほぼほぼ、同じメンバーおられて、その時には実践会議というのを立ち上げてという話になったのが推進会議として、なるほど。はい。ということで、そちらで今のご説明で、お分かりになりましたでしょうか。

委員 あんまりわからん。ちょっといいだろうか。やっぱり、はい。
田中会長 はい。ご質問、もう一度よろしいですか。お願いいたします。
委員 すいません。ここに座らしてもらってる意味がわからんと、うつらうつら眠くなってくるんですけど、私たちは婦人会として、女性連絡協議会から来てますが、いろんな今回取組で、勉強をさせてもらったり、今年は京都府連合婦人会は全国大会をするということで、京都に、学校、全国から来ていただくということで文化の勉強、いろいろとなぜ京都に文化が今芽生えてこれだけ世界の人に来てくださるかというようなことを、学習を去年からしていきまして、平城京から平安京への移り変わり、そして、皇室文化を勉強したり、そして伝えることも勉強したり、今年の6月にはその中央研修会には、私たちが、文化としての、よく委員さんが言われたように、小さいころから祭りから覚えた文化とか、神社だから残った文化があるし、お寺だから残った文化があるしということで、絵画とかいろいろありますよね。そういう学習を今続けているんです。で、一体これは私たちはここへ何のために呼ばれたのかさっぱりわからない。それで、イベントをさせるためなのか、補助金もどんどん少なくなっていますし、京都府としての、この補助金を出してやるからイベントをなささいということなのか、イベントをするから、それに対して私たちは何を会議したらいいのか。もう活字ばかりで何もわかりません。

田中会長 そうしましたら、藤野先生の方からちょっとご説明がお願いできますでしょうか。
藤野アドバイザー はい。私はアドバイザーという立場なんですけれども、文化芸術振興計画を作る際の課題として挙げさせていただいたことがあります。いろんな市町でもって、この振興計画を作ります。京丹後市はその前に条例を作りました。その条例に基づいて振興計画を、時間かけて作っていったわけですね。多くの事例としてはですね、せっかく計画ができたのに、その計画通りに何も実行されてない。ということが結構多いんですね。それでしかも、計画を進行管理するような今日ここであるような、審議会が開かれな、ということもあります。例えば、豊岡はすごくうまくいってるように思われるかもしれませんが、豊岡は、振興計画は作りました。豊岡は7年ぐらい前に作って、5年で見直すということで、見直しもしましたが、その時は、審議会を作ってなかったんで、私はアドバイザーとして個人的に作り直すことに関わりました。でもその作りっ放しでペーパーだけになっちゃってるんですね、実際に何がどう、計画を作ったことによって変わったのかってのは、誰も知らない。市民どころか、行政の中でも人が変わりますから、受け継がれてないっていう実態が、もう全国いたるところでございます。それをせっかく力を込めて作った条例なり、計画にも関わらず、それがちゃんと活かされてないというのはすごくもったいないなという思いがあったので、まずこの計画を作った後に、去年はね、1回しかできませんでしたが、今年は2回を予定してますけれども、作った皆さんの目でもって、その計画がちゃんと実行されているのか。あるいは、どこに実行されない問題点があるかっていうようなことを、いわば評価、分析していただく。それが審議会になります。もう1つ重要な問題は、計画を作っても何も変わらない、何も実行されてないということで、推進母体がないっていうことなんですね。これも非常にもったいないことで、推進母体としてちゃんとみんなが計画したんだから、それに向けて、5年とか10年の計画でもって、文化

芸術の振興を進めていこうじゃないかというその推進母体を作らなくちゃいけない。その推進母体の会議が今、推進会議っていう名前になっている。以前は実践会議っていう名前だったと思います。そういう二重構造になってるので、少しわかりにくいかもしれないんですけども、実際に計画に基づいて文化振興を具体的に進めていくのは、推進会議。ですからそこにいろんな提案が出てくる。それから改善案が出てくる。その場が推進会議ということになります。そこで行われてることが本当に、その計画に照らして、どこまでうまくいってるのがどこに問題があるのかっていうことを、皆さん、計画作った人たちの目でもって、検証する場が、この会議になります。そういう2段階に分けているのですが、実際のところ、私が少し前から関わっている、八尾市ではそういう二重構造にして、八尾市がこの芸術文化審議会、これは年に2回3回ぐらいしかやらないんですけどももう1つは推進会議、年に、全体会は結構やっています。幹事会は、4回あります。幹事会ってのは絞られたメンバーでやっています。それとは別に、全体会っていうのはかなり人数をたくさん、どんどんいろんなに入れてもらっているんで、今30人から35人になっています。本当に月1ぐらいでもって、わいわいがやがやと、会議を開いていろんなアイデア出てきて、今度はそのグループの方でやろうみたいなことが起こっています。ただそれがその全体を統括して、コーディネートしなければならないのでコーディネートするような会議体として幹事会というのがあってそれが年4回ぐらいです。そこで行われてることを、今度は報告して、それが基本計画にどのぐらい即して、実行されてるかというのを、まさに審議するのが、年に1回ぐらいやられてる審議会。そういう形で、すみ分けをしてる。ただメンバーは結構、実は重なってるんですね。推進会議の幹事会というのと、全体会になってるんですけども、審議会のメンバーが全体会のメンバーになってたりとか、あるいは幹事会のメンバーになる。という両方に関わってる方もいらっしゃる、そういった構造になっております。まだ1年目なので、形が十分に見えてきてないかと思いますが、そういう二重構造をすることによって、せっかく作った計画を十分に活かして、その位置付けにしていきたいと思いますという趣旨でございます。少しおわかりでしょうか。

田中会長 はい。ありがとうございます。おわかりになりましたでしょうか。

委員 じっくり笑うだけしかない。

田中会長 多分、行政の方も大きく異動がありまして、いろいろと大変だったと思いますけれども、今、藤野先生がご説明いただいたことをちょっと活字で残していただいたらわかりやすいのかなと思います。はい。教育長。

教育長 今、藤野アドバイザーの方からありましたようなところの話が、この資料1の中に、もう少し、わかりやすい形で整理し直して、どういう関係性にある、どういう狙いを持ってるところは、また皆さんの方に示させていただければ良いかなというふうに思いますし、この教育委員会でも、資料の整理の仕方として、今年の計画があって、評価があって本年度の計画が、手だてがあってっていうところが、わかりやすい形で示した上で、PDCAのサイクルを皆さんに評価いただくところをしていかないと、なかなかわかりにくんじゃないかということも、話しておりましたので、今ご意見いただいたもので、より意見を言っていただきやすいとか、役割がわかりやすい資料を整理させていただきまし

て、また提示させていただきますので今日は、もうどの分野からでも思っていることを言っていたくのが良いかなと思いますので、少しこだわらずにいろいろと意見をいただけたらありがたい。

田中会長 教育長、ありがとうございます。はい。では引き続きここでご意見とかご質問を受けさせていただいたらよろしいですか。いかがでしょうか。なかなか伝えるということは難しいです。はい。よろしいですか。

(藤野アドバイザー退席)

委 員 すみません。そしたら評価というところなんですけど、ワークショップ3つありましたね、その結果としまして、ふれあい工房の方に展示されましたね。そこに、見せていただきに行きましたんですけど、うん。すごく人数が少ないなと思ってね、5人とか4人とかね。なんか人が、すごく芸術家の方がね、おられてずっと何回かね指導されるのに、少し人数が少なくてもったいなあなっていうふうになんかちょっと思ったんです。もうちょっといろんな人の参加ができれば、よかったんですけど、それともそれなりの制限されてたのか、もう少ない人数できるようにされたのかちょっとわからないんですけど、せっかくの会が持ったもったいなかったなっていう感想はあります。

田中会長 ありがとうございます。よろしいですか。はい。

事務局 はい。ありがとうございます。先ほど報告の中でご説明させていただいたんですけども人数は制限をしておりました。内容と質であったり、あとは体験の質と、あと参加者同士の交流という部分にも重点を置いていたので、人数を絞っておりました。

田中会長 ありがとうございます。そうしましたら幾つかの、後程その他のところがありますので、ここで一旦質問、ご意見に移らせていただいて、事務局より、次の議題の方に移っていただけますでしょうか。

事務局 はい。事務局よりご説明します。資料ナンバー6の都市拠点公共施設整備基本計画についてをご覧ください。

(事務局より説明)

田中会長 ご説明ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明について、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

委 員 はい、すみません。今ですねこの28ページの方の1階の平面図を見させてもらってるんですが、一番右下の方の市民ホール200席という形でホールがイメージされてると思うんですけど、こちらの方の目的、もしくはこういうことまで使えるよというような想定とか何かされてますでしょうか。

田中会長 28ページ。

委 員 ごめんなさい。資料の28ページのA案ですね。このホールの方の主要用途というのがどの辺りまで考えられてるか、ちょっとお願いできますでしょうか。

田中会長 市民ホール200席という右下の図ところのことでしょうか。

委 員 私の方の質問といいますのが、この京丹後市でも結構いろんなホールがあるんですが、音楽に対してかなり限定されて使用できるところが多いです。簡単に言いますとロックはまず使用不可というのは、結構のホールに言われてる状態でありまして、実はアグリセンタ

一の方もそうなのですが、会場の下に図書館があるというのは私、音響の立場から考えると、ちょっと考えにくい配置ではある状態ですね。やはり振動というのは結構伝わって、どなたでもやっぱ振動は出てきますので、騒音ではなくてやっぱりその伝わってしまうものがあつたとしても結構コンクリート伝わって、鳴ってる響いたりもするんで、そうなつてくると、大きな音っていうのは、どこまでっていうのが非常にラインを設定が難しいのではあるんですけども。結構そういう形でいろんな会場で基本的なドラムが駄目ですよとか何かエレキギターがダメという会館もありますし、目的云々ではなくて、何かもう使われる楽器で駄目とかいうのも結構制限があるんです正直言ひまして。そうすると今回新しく建てるホールっていうのは、例えば防音施設がしっかりしてるよとか、なんかその辺のことも、もし詳しくわかれば教えていただきたいと思ひまして。

田中会長 事務局、お願いできますか。

事務局 はい。すごく詳しくはご説明ができないところありますが、今私どもで把握させていただいておひますのが、音楽とかで本当に本格的に実施ができるホールではなくて、あくまでも、文化会館のように音響設備も整つた、防音設備も整つたという 100%そういう音楽に特化した専門的にできるようなところまでは至るようなホールではないというふうにな聞かせてはいただひておひますので、今委員の方からおっしやっただひておひますような、防音設備がもう 100%、いけるような設備であつたりとかそういう専門特化してる施設までは整備はされないというふうにな聞かせてはいただひておひます。

田中会長 はい。22 ページのところには、防音とちょっと大きいところには、括弧書きの中に書いてあるようにも思ひんですが、大丈夫ですか。委員の方から質問ありますか。22 ページの、ポイントのところには、照明音響を保有する施設での検討というこのあたりが、すごく細かいことがすごく気にはなるところです。

事務局 一定程度はあるとは思ひんですけれども、そこが本当に、100%音楽を専門とされておられる方で、音楽が収録できたりとか、例えば機材が、メーカーがしっかりしたもの、の音響が使えるかという、そこまで専門的に特化したものではないというふうにな聞かせてはいただひておひまして、一般的にな使えるようなアグリセンターのイメージぐらいを、今聞かせてはいただひておひます。

田中会長 はい。委員どうぞ。

委員 多分これも、どこのホールもって言い方したらちょっと失礼なのかもしれませんが、防音という考え方が大分ちょっと、勘違いされてるものがあると思ひんです。全く聞こえないというのが防音ではないんです。騒音レベルまで下げたら効果は出てるというのが、防音なんで、聞こえないイコール、防音ではないです。ですので、その辺の逆にちょっとごめんなさいね、言い方悪いですけど、にごされてしまうと、何のためのホールですかって話になつてくるんですよ。先ほど言ったようにいろんな音楽団体とかもいっぱいおられる状態で、使いたいホールが使えないって困ってる団体たくさんあります。それで今度は新しい、例えば新しくなるホールに期待をされてる団体もたくさんおられます。そこで、要するにその本格的機材とかって言われますと、そこも結構、語弊あるところもあるんです。だから、だったらもう少し詳しく、そういう専門業者さんとも相談をされて、使うことも

しっかり考えられてとかっていう、せっかく建てるのであれば、やっぱり昨年でしたっけ視察の方で養父ですね、そちらの方に一応行かしてもらいましたけど、あそこは要するに図書室と文化会館というのは、少し離れた、道挟んで反対にありまして、もうほとんど建物の中の音はまず聞こえない状態でしっかり作られてますし、練習室っていうのもすごく充実した楽器等もすべて置いてありまして、値段的にもかなりお安く提供され、使用料も安くとかして、本当にその音楽をもうどんどんやっってくださいというイメージを僕は感じてるんです。もちろんアグリセンターの方も、正直言いまして、十分音楽に対応できると僕は思ってます。どこの建物も本当は結構対応できてると思うんです。音漏れっていうのは確かにある場所もあります。そこを何とか確保するとか、施工するなりとかすると、大分防ぎ、また、音楽に特化した建物として生まれ変わることもできると私は思ってます。結局その同じような用途の使い道の状態のホールをまた同じく作るのかっていうのが、ちょっとイメージがありまして今の感じでは、せっかく建てるのであればもう少しやっぱここの声、いろんな文化団体の声もお聞きになられて、作っていただきたいなど。やはりホールのみって形ですので、ちょっとしたリハーサル室とか、そういうのもあればやっぱりもっとうれしいですし、ちょっと私もコロナの関係で急きょいろんなところの会館の方と、今仕事をさしてもらってるのでちょっとかなり大きなスペースになるんですが、びわ湖ホール行かしてもらってる状態ですよ。あそこはもう音楽の特化というかはどちらかというところと演劇とか、ミュージカルとか、もうほとんど生で、生声、生演奏とかにすごく特化したホールがあると僕は感じてるんですけど、でも、かなり多目的でやっまして、その導線でホールでもリハーサルができるし、その近くの横の部屋でもリハーサルルームと別であるとか、そのステージだけを目的ではなくてそれに関連する練習室もたくさんありますんで、そういうふうにやっぱり、単なるホールを作って終わりですというイメージではなくて、もう少しいろんな動線も付け加えた、そういう意見も取り入れていただければ、ここだけの話で申し訳ないんですけど、ありがたいと思ってます。

事務局 はい。ありがとうございます。この事業ですね都市拠点整備推進室というところが所管しておりまして、そこで昨年度基本計画が策定されて、今後、基本設計というところに移っていくということで聞いておりまして、先ほど、私どもが今の時点で聞かせていただいているイメージを、ご説明させていただきましたが、先ほど委員さんからご意見いただいたように、文化芸術の発展、推進させるために市民ホールというのとはなくてはならない施設だというふうに思いますので、先ほどいただいた意見を整備拠点推進室の方にお伝えさせていただいて、参考にさせていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

田中会長 その他にご質問、ご意見。はい。お願いします。
委員 駐車場、東側に予定されているんですけど、大体何台ぐらい停められる予定ですか。例えば、駐車スペースを、少なければ増やさないといけないです。どの程度充実、駐車場何台と200人の市民スペース、市民が集まるホールがある中で、どれぐらい、停められるものでしょうか。

田中会長 25ページでしょうかね。約300台。

委員 ありました。はい、わかりました 300 だったら、はい。そうですね。ありがとうございました。

田中会長 その他に。はい。お願いいたします。

委員 駐車場は無料なのか、福知山市役所のように、時間で値引きするとか、用事があったらこられた人に対しては値引きしたりとか、そういうふうにされるのか、今の市役所前のように自由に夜間停めてどこかに旅行もできたり、飲みに行ったりできる駐車場なのか、ものすごい私はもう、もったいない駐車場がいっぱいあると思うんです。本当にそういうところをきちんとしてほしいなって思いますね。停めたいときに止められない。

事務局 はいありがとうございます。今の段階で、基本計画が策定された段階ですので、これから基本設計という中で、どういった駐車場整備していくかというところが出てくると思います。今のところ、事務局にそういった、詳細の情報がありませんので、ぜひまた詳細がわかりましたら、この場でまたご提供させていただきたいと思います。

田中会長 よろしいですか。

委員 わかりましたでいいですけど。

事務局 はい。

委員 でも、ここの審議会からそういう意見が出たことは伝えるべきではないでしょうか。

事務局 はい。承知しました。お伝えさせていただきます。

松本副会長 ちょっと、図書館の関係で。近年の図書館の公共で整備して運営を民間委託するという例もありますね。それに賛否はいろいろあると思うんですけれども、民間に運営をゆだねて、公立の図書館では対応できなかったような、例えば夜 10 時まで開館する。正月三が日以外に全部開けるといった、市民サービスも非常に力を入れる形での図書館が全国にはたくさんありますね。今回新しい図書館を、中央図書館を整備するということですがけれども、運営方針についての議論はされているのでしょうか。それとも、公立の図書館。公設公営でいくという方針で進んでいるということでしょうか。その辺どうでしょうか。

田中会長 いかがでしょうか。

松本副会長 具体的にちょっと言いますね。例えば佐賀県にある武雄市図書館では TSUTAYA に運営を委託して、だからスターバックスを、カフェを入れて、そこが町の何ていうんですか、待ち合わせ場所になって、近隣の 1 時間圏内の住民の方々が、図書館で集まろう。そういう場所にまで今なってる図書館もありますね。それがいいか悪いかというのは、いろいろ意見もありますけれども、仮に京都府の北部で、そういったような、カフェを併設するような、あそこを目指していこうという図書館ができれば、都市拠点、京都府の北部の拠点にまで格上げすることも可能ではないかという思いもあるんですけど。そういったようなものまで議論してやってはどうかという期待。私も議員のときは一般質問を何回もしましたんで、割とこだわってまして。この場でちょっと改めて、確認させてもらいたいと聞かせていただきました。

田中会長 はい。本当にまちの本屋さんも次々に無くなるような状況が、今次々にある中で、意見をどうぞお届けいただいて。事務局お願いします。

事務局 はい。ご意見いただきましてありがとうございます。今ですねいろんな手法の、先ほど副

会長が言われましたように、いろんな手法の管理方法、運営方法があるというふうに思います。どういった手法が、今回整備する図書館に適しているのかということを検討をしておりますね、今後並行して検討をさせていただくということになるかと思っております。今いただいたご意見もですね、また、図書館の協議会の方にお伝えさせていただきまして、はい。検討を進めさせていただきたいというふうに思います。

田中会長 委員 ご質問ご意見の方は、はい。お願いいたします。

委員 すいません。1つお伺いします。文化芸術スポーツ活動支援機能を有する図書館ということなんですけども、スポーツの分野に関して、一体何が整備されるのでしょうか。18ページの施設整備計画に含まれていたもので、ちょっと気になりました。18ページ第4章。

田中会長 この図の中、見出しのところで、22ページの項目の中には、あるんですけど、22ページですね。

委員 そうですね。22ページの見出しの所でございます。書いてあるのですが、文化芸術スポーツ活動支援機能とあるんですけども、整備計画を見ているとちょっとスポーツに関する施設がないように見受けられるんですけども。

田中会長 活字としてはあるんですけども、この図の中では、見えてこないですね、活字の中で、文化芸術スポーツとひとくくりでこう、活字が上がってる感じがします。

事務局 はいすいません。ちょっとただいまご質問いただいた件につきまして、ちょっとこちらの方も今把握が100%できておりませんのでして申し訳ございません。今のところ私の方でもこのスポーツに関しての部分というのが非常になかなかこう、このA案、A案からC案とかですね、中でもちょっとなかなか見えない。という部分ですね、お尋ねいただいておりますのでちょっとまた、都市計画の方ですね、もちょっと確認をさせていただきながら、はい。近いお答え等ができればというふうに思っております。

田中会長 すいません。私もこの委員の中に入ってたんですけど、スポーツといっても、本格的なスポーツではないと思います。確か。私の方もお答えさせていただきます。関係してしますので、ごめんなさい。はい。よろしいでしょうか。他に。はい。

委員 今はスポーツという概念がこの計画の中には、子供たちの遊びの広場ぐらいしか、身体を動かすという部分ではありませんね。これまで何回かこのスケジュールに関係したお話の中でです。それともう1つは、私はこのしんざん小学校地区に住んでるんですが、そこをこの今計画してもらっているところの策定してもらっているところの場所を、散策で何回も何回も、通るんですけど、家が建ってみたいな、ここが駐車場になるのかなあと思ったりしておりますが、用地買収がどれぐらい進んでるのか。何か聞くところによりますとなかなか難しいと言って聞いております。しんざん小学校が建設され、今まさに建設されたときに、あそこ随分盛り土をしたんですね、ちょうどそのときに。保育所の役員を毎年しとったものですから、その一番の土木の方へは関係してないんですけど、いろいろなところでお話を聞くにしても、割とすんなりと用地買収ができておったように思うんですけど、もう随分前のことなんですけれど。どういうことで、なかなか今は、それは地権者の問題もありましようけど、やっぱり京丹後市の未来の子供たちを、未来をになってくれる子供たちを、みんなで育てていく施設として、文化施設って、代々土地を持っておられる

方に関してはね。それはかけがえのない資産でありますし、なかなか手放すことは難しいでしょうけれど、そここのところ、上手にお伝えして、ご協力いただくというコンセプトでお話を進めていただくと。もうちょっと、すんなりではなくても、それなら仕方がないねと、自分たちの、孫やひ孫に当たる子たちの文化や、教育のためになんだ、どんとこいと。ひと肌もふた肌も脱いでやろうじゃないかというような、お話がもらえないもんかなあと思ったり、この土地はどんな方がとか。耕作をされている方が、所有権がある方とは、限りませんが、ちょっとそんなことを見ながら考えたりしております。この計画の中に、43 ページの2 番の事業スケジュールの中で、令和5 年で始まってますよね。半分はきてるんですけど、いかんせん、こここのところが耳に聞こえてこないというのでちょっと心配しております。良い話になるように力を注いでいただきたいと思う。

田中会長
委 員

ありがとうございます。

すいません。どうしても次の会議の関係で中座しなければいけないということもあって、1 つぐらいは意見を言ってからと思います。この審議会が、この都市拠点の計画について検討して、細部についてという組織ではないと思うので、なかなか難しいかなというふうに思いますけども、いやこれは部局が違うからお前らは関係ないんだっていう、ことでもないと思います。さらには、ここで今出されている意見が、生涯学習課長さんの方が、じゃあ言っときますわっていうものでもないというふうにね、思います。田中会長さんが出ておられたその検討会議の方が、この後どうなるかっていうのがちょっと書いてないのでわからないんですけども。第5 回、1 月にはもう解散されたのかなというふうに思うところですが、今後、だからこの審議会での、文化に限定した意見がきちっと公式なルートで、田中会長を通じて、この計画の方の、細部に意見が盛り込まれるようなことだけはぜひ確認をしておいていただかないと、あんまり芸術審議会の意味がないかなと思いますね。

田中会長

この計画に、都市拠点の計画については、何回かですね、あったんですけども、なぜここなんだっていう話はもう何度も議論が何度も何度も元に戻りながら、あったんです。でもこれはもう、この計画がなされて、パブリックコメントにもう、出たんですね。それで、もうそこで通って、この計画はもう実行に移される段階まで来てるということで、事務局。違いますか。

事務局

はい。その通りだというふうに認識しております。はい。昨年度中にパブリックコメントをされてると。はい。

委 員

次もまた採択は出されるんですよね。明示されるんですね、

事務局

設計の方ですね、基本設計がですね。

委 員

そうです。それはもちろんパブコメももう一度されてということですか。

事務局

すみません。基本設計に関してパブリックコメントがされるかどうかっていうのはちょっと。すいません私認識はなくて、申し訳ないんですが。

委 員

なるほど。ただ、検討会議を作るような、各図書館や芸術関係の具申、諮問機関みたいなものはもう一応、一定解散されたという。もう終わりということですね。あとは行政の方でやられるということ。

田中会長

その会議に関しては、一旦解散だと私の方は思ってるんですけども。ただ、この計画

はまだ案も、これは、違ったら訂正ください。これは都市拠点はやっぱり作る方向で話はもう進んでますね。

委員 計画はね。それは、役所はもうこれで承認されたと思うんですけど。

田中会長 ただこの辺のA案B案C案D案。D案は出てませんが。この案があるので、そこは設計とか、今の段階でここにお尋ねがあるということは、図書館の機能を含めて、文化芸術の方で、このご意見を求めているのが反映していただけないかと私は理解してるんですが違いますでしょうか。

委員 わからないですね。ちょっと確認をしていただいて、ただ向こうには向こうの審議会みたいな組織はなければならないと思いますし、そこに代表が出られますので。

田中会長 そうですね。はい。

委員 続行していかないとその後の話や、僕に言わせたらオーケストラ入らなかったら困るやんとかですね、細かい話はちょっと置いて、やっぱり進行管理をしていく、我々は芸術に関しては、進行管理をしていく責任があるので、去年のことを分析して今年活かすも結構なんですけど、じゃないと事務局から今提案された意味がないのでね。ちょっとその辺がですね。

田中会長 この少子化の中で、中にはホールなんか要るのかという方もありました。無くてもいいんじゃないかっていう意見出ましたけれども、やはり規模的に縮小して、小ホールでもというところで、ここまでの案にたどり着いているのが現状だったと思います。

委員 まあだからね、我々は駐車場とか買収の心配はしなくていいと。きりがないのでね。とは思いますが、今後関われるのかどうかだけは、また確認をしていただいて、もう関係ないし言うことやったら、時間ももったいないなことではあると思いますが、もう本当にいろんな意見があつてまとまらない、よう分かって、それをね、1つに収斂していくのが大変だと思いますけれども。一応、公的なものですので、硝子張りにしていただいてと思いました。

田中会長 はい。私も今お聞きしましたので、せっかくの審議会なので、ご意見が反映されるように、行政の方をお願いしたいと思います。はい。都市計画の、この基本計画の今の議題4番目の議題についてはもう皆さん、もう意見は言いつくしていただきましたでしょうか。そうしましたら藤野先生にちょっと。いただくと思ってたんですけども、おられなく、帰られてしまわれたので、はい。甲斐さんに。

甲斐アドバイザー はい。先ほどの資料の件ですけど。皆さん時間もあれなんですけど、ちょっと気になったところがあったので、ごめんなさい、ちょっとご意見を言わせていただきたいと思います。図書館のところで、蔵書の数15万冊というのが設定であります。今のそれぞれの公民館、建設されてる図書館の蔵書の数を見たときに、網野が10万冊で一番多いんですけど、そうなってくると合計にすると、15万冊には満たない。ただこの数字が多いのか少ないのかというときに。ちょっと今、検索したんですけど、豊岡市は38万冊。まあ人口7.8万人に対し、専門職大学の蔵書も入っているのかということですけども。数字もそうなんですけど、どういった本を扱うという選書の部分も考えられてはいらっしゃると思うんですけど、そこは、京丹後にいて、あまり触れられないような本とか、専門書など。図書館も、

図書室じゃなくて。本屋さんが無くなるなかでそういったことも考慮いただくといいのかなと思いました。それと、これはまあ補足でなんですけれども、このアドバイザーになってから、都度言わせていただいていることなんですけども。都市拠点に関しては丹後オープンビレッジ構想というところもあるので、そちらとの情報共有ができていかなというのが、いつも気になるところであります。都市拠点ができる場所と丹後オープンビレッジセンターができる場所というのが近い距離にありますので、そちらの機能のすみ分けについて情報共有された方がいいと思います。ちょっと他にもありますが、割愛します。

田中会長
アドバイザー

オープンビレッジ構想っていうのがわからない方の方が多いと思います。
丹後オープンビレッジ構想というのは、丹後織物工業組合さんの今ある中央加工場の場所に、大きな展示会場であるとかオープンファクトリーといって工場見学ができるような機能に加えて、カフェテリアのような機能をつけた場所になるということです。

田中会長
委員

はい。お願いいたします。
さっきアドバイザーの甲斐さんからお話がありました選書なんかは、今のところは、館長、市の職員さんで、希望の一般市民からこんな本が入れてほしいなあという希望プラス、選ぶというのは職員さんがやっております。それから、専門の話ですかね。そんなのも、新しいところには、極力入れていただくようにはお願いしております。もっと今よりも充実した、深いところまで知ることができる資料が揃うんではないかと期待しております。

田中会長

会議の方には、図書館協議会、副会長の松岡先生が出ておられたんですけども、規模的に同じような人口の、この視察で和歌山の方の、ちょっと私は行けなかったんですけど。そこをちょっと視察の場所が、今スパッとはいえないんですけどそこを見に行かれて、同じような人口と同じような環境のところを参考にされて、計画の中では、おられたと思いますので、ちょっと名前がどこだったかというのは言えないんですけど、行かれた方たちはあのような施設が丹後にできるという思いで、帰ってこられたっていう経緯はちょっと補足させていただきます。はい。それでは意見の方は、よろしいですか。

委員
田中会長
委員

先ほど視察で行かれたのは、海南市の方へ。
そうです。海南市です。はい。
海南市に行かれて図書館の方の印象ですけど。地域の方、市民の方が、待ち合わせ場所だとか、それからほっと一息、自分だけの居場所づくりだとかね。それから、子供たちの居場所づくりにもなっていたり。図書館機能というだけじゃなくって、市民の憩いの場所になったり、待ち合わせ場所になったり、本当それ、時間を作る場所だったという。そういうイメージが強かったとおっしゃって、私は写真を見ながら想像していたんですけども。そういったような場所提供を、市民の方にできるといいなとずっとお話をする中でゆっくりする図書館がほしいねという話が委員の中で出ておりましたので、そういう所をしっかりと見てきていただいたんだと思って聞いておりました。

田中会長

よろしいでしょうか。大庭先生を筆頭に、なぜここなのかとかいろいろ出たんですけども、この18ページの一番上につくろう未来の町となってるんですけど、若い世代の方たちに集まっていただいて、行政さんの方も中学生の現場まで聞き取りに行っていた

り、結構若い人の意見も収集しながら、この計画までたどり着いている経過はあると思います。はい。そうしましたら、都市拠点の方の質問やご意見が出尽くしたと思います。時間の方も結構すぎてますので、ここでアドバイザーの藤野先生お帰りになったんですけれども、はい甲斐アドバイザーの方がありますか。よろしいですか。はい。そうしましたらこのアドバイザー、藤野先生の途中のご意見もいただいたんですけれども、その他ないようでしたらもうその他ということで、言い残したことがあれば、皆さん、せっかくの機会ですので、忌憚のないご意見をいただきまして、ないようですか。ありますか。はい。どうぞ。

委員 すいませんありがとうございます。次回開催されるということなんですけども、もう少し具体的にどういった意見をを集めているのかということ、わかりやすく、なればいいかなという。意見があってもその現場に届かなかったりするとやっぱりもやもやしますので、やはり具体的な審議内容を期待します。

田中会長 次に松本副会長。

松本副会長 すいません。せっかくの審議会ね。言えば公の意見でしょ。個人の座談会ではありませんので、公の意見として大変重要な場所だと思うんです。今回資料を用意していただいたんですけれども、大変残念ながら、予算が、金額が、入っていなかったのが、大変残念だと思います。11月頃に、次回計画していただいているようですので、当然、時期的には次年度の予算要望の、時期にあたるはずですよ。その頃に審議会を開くということは、今年度の予算、次年度に向けてじゃあこういう部分が、予算的にどうだったのかという意見を、私はこの審議会の委員の皆さんのそれぞれの立場で、言っていただける機会にさせていただいたら、それまで参考にしていただけるかどうかというのは、これまた別問題としまして、審議会でこういったような予算の声があったよということも、例えば、教育委員会さんが予算要求する場合に審議会から大変強く言われました。ということになれば、この審議会の何ていうんですか、その教育委員会の中での位置付けというもの、これは重くなるんじゃないかと思えますし、逆に言うと審議会の皆さんも、そういった声やはり重いものになるのではないかと思いますので、11月の審議会の場ではすね、できたら予算の金額が分かるものがあがってくると。中身も少し深掘りができるんじゃないか。思いますけれども。どうでしょうか。

事務局 はい。ありがとうございます。第2回目の審議会では、その点も加味しまして、資料作成させていただきまして、より具体的なご意見だったり、協議だったりしていただきたいというふうに考えております。今日たくさん活発なご意見いただきました。私もこの4月に、今の担当に来たときにですね、いろんな会議体があって、この会議はそもそもどういう目的で設置されてるのか、こっこの会議とはどういう関係性があるのかというのが非常にわかりにくいというふうに思っておりました。先ほど松本教育長からもありましたように、今日ご提示お示しさせていただいた相関図を、よりわかりやすく、改定させていただいて、さらに藤野先生からいただいたご説明も事務局の方で一定整理させていただいて、後日改めてお届けさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いたしたいと思います。ありがとうございます。

- 田中会長 ありがとうございます。藤野アドバイザーがおられたら多分、副会長と同じことを言っておられるように思います。昨年から引き続きの事務局の方も具体的にすごくアクションを起こしていただいて、サクサクと波をウェーブを起こしてもらってるのかなと思います。そうしましたらもう、その3、その他もないようですので、これで議事進行、皆さんご協力ありがとうございました。つたない進行でしたが、事務局の方にお返しさせていただきます。
- 事務局 はい。田中会長様、議事進行お疲れ様でした。ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、松本副会長から閉会のご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。
- 松本副会長 はい。皆さんご苦労様でした。文化とか芸術の分野が幅広いので、またやり方についても、それからアプローチの仕方も、本当に様々だと思います。簡単に結論が出せるものじゃなくて、またスポーツのようにすぐに成績が、数字であらわせるものでもないということから、手探りで手探りでやりながら進むものだと思っていますが、行政の宿命である人事異動というものに釘をさす意味で、計画ができて、そしてそれを高いところから、こういうメンバーとして、ご意見ご支援をしていただく審議会ができる。そして、その実行部隊となる、企画を立てたり、イベントを計画したり、こんなことやってみようかっていう企画を出したりする、推進会議が、立ち上がったりと、形が少しずつ整ってきましたので、皆さんと意見交換を深めながら、これが一步一步ずつ、また、前を向いて、京丹後市少しずつ変わり始めたなというその礎を、皆さんと一緒に作っていききたいなと思っています。新しい委員さんも入っていただきましたので、活発な意見を交わしながら、これからは、京丹後の文化芸術がさらによりよいものになるように、皆さんのご協力を心からお願いしまして、閉会の挨拶をします。今日はどうもご苦労さまでした。
- 松本課長 はい、ありがとうございました。以上をもちまして、本日の審議会を閉会とさせていただきます。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。